

# Kamenori College 2019 報告

## 【Kamenori College2019 の目的】

グローバルコミュニケーションに必要なスキルセットとマインドセットの醸成

## 【テーマ】

「Be Active and Enjoy !」

## 【目標】

- ・ 英語レベルに関わらず、自ら発言し、様々な新しい発見を楽しむ
- ・ 参画型のセッションを通して、視野を広げ、多様な環境を体感する
- ・ 未知のメンバー同士で、期間中の標準語である英語を使用して寝食を共にし、自分の世界を広げる

## 【期間】

2019年2月22日（金）～25日（月）

## 【スケジュール】

	Feb. 22 <sup>nd</sup> (Fri.)	Feb. 23 <sup>rd</sup> (Sat.)	Feb. 24 <sup>th</sup> (Sun.)	Feb. 25 <sup>th</sup> (Mon.)
AM		Daily Orientation	Daily Orientation	Daily Orientation
	For Non-Japanese Students Special Guidance for Non-J	Social English #2	Team Workshop #3	Team Presentation
	Guidance	East Asia's Present and Futures	Global Mind Set	
PM	Orientation Ice Breaking	Life Purpose & Trust	Values & Visioning	Closing
	Global Communication & Team Project			Team Workshop #4
	Social English #1	Presentation Skill	Japan from Asian Perspective	
	Welcome Party	Encouraging Speech		
	Team Workshop #1	Team Workshop #2		

## 【参加者】

- ・ アジア 4 カ国（カンボジア、中国、フィリピン、マレーシア）からの留学生
- ・ 日本の大学学部生 17 名

## 【報告】

### 1. 集合・全体ガイダンス

茨城県つくばみらい市のスタート総合研修センターに日本人大学生 17 名、留学生 4 名が集結。駅での集合時から早速英語でのコミュニケーションが開始しており、参加者たちのやる気も十分といった様子。全体ガイダンスでは事務局からこのプログラムの目的や目標を再度確認。特に「間違いを恐れずに英語で話すこと」を強調して伝えた。ガイダンスの最後に自分が呼んでほしいニックネームを決め、プログラムがスタートした。



スタート総合研修センター



アジアの留学生 4 名



全体ガイダンスの様子

### 2. Orientation & Ice Breaking

山本智巳講師によるオリエンテーション。テーマ「Be Active and Enjoy！」を強調し、「とにかく英語を話し、失敗していいから挑戦し続けよう！」とまだ少し緊張した面持ちの参加者たちを励ました。続いて、Brent Conkle 講師によるアイスブレイク。資料に書かれた内容に該当する人を 10 人見つけるというミッションが与えられ、参加者たちは活発に研修室を動きまわった。



### 3. Global Communication& Team project

前述の山本講師のセッション。外資系企業で長く勤めた自身の体験を話し、グローバルコミュニケーションに大事なことは「質問すること」「話さないとも何も始まらない」「成長思考をもつこと」だと述べた。講師のメッセージを受けて、質問があるかと聞かれると数名の参加者から手が挙がった。セッションの最後に、今日から始まるチームワークショップ、プレゼンテーションについての説明がされた。



### 4. Social English

若手講師 3 名によるセッション。3 つの教室に分かれて、少人数で英語で会話を続けるための語彙や表現方法などを学んだ。その後、即実践ということで参加者同士でロールプレイを実施。セッションは終始明るい雰囲気が進み、講師たちは学生たちの発言をよく褒めていた。学生たちの表情も明るく、楽しんでセッションに参加したようだった。

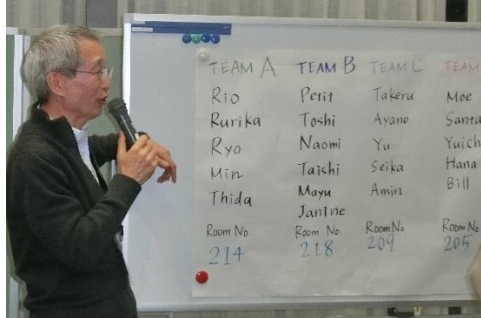


少人数でのセッション

ロールプレイ風景

## 5. Welcome Party

初日の歓迎夕食会はロビーで行われた。立食形式で自由に移動することができ、参加者たちはまだ話をしていない人に声をかけたり、講師やスタッフと談笑したり、みなそれぞれ楽しい時間を過ごしたようだ。夕食会の最後には初日夜から始まるチームプレゼンテーションの班分け発表が行われた。



チーム分け発表

## 6. Team Workshop

初日の夜から作業開始。事前課題のケース資料について各自が考えてきたことをチーム内で共有し、ディスカッションを重ねた。最終日には各チームがコンサルタントとして、クライアント役の講師の前でケース問題の解決方法を提案（プレゼンテーション）する。初日から最終日前日まで毎晩行われ、最終日前日は深夜にも及ぶ準備が行われた。



TEAM A



TEAM B



TEAM C



TEAM D

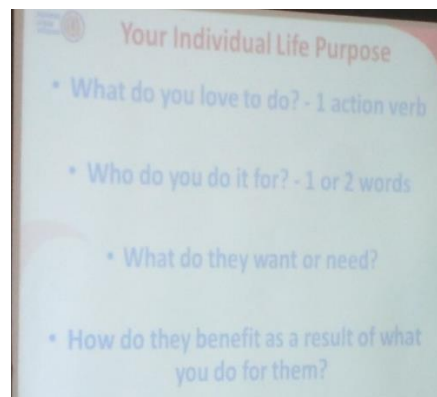
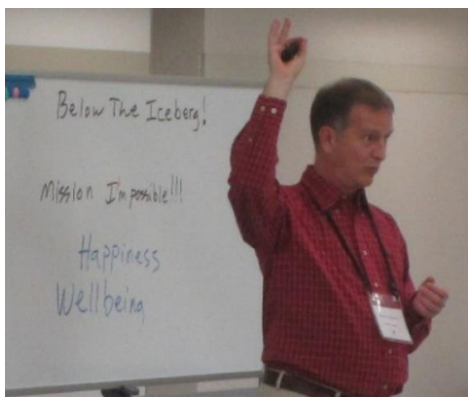
### 7. East Asia's Present and Futures

Stephen R Nagy 氏による講義形式のセッション。国際政治に関する少し難しい内容ではあったが、参加者たちは良い刺激を受けたようだった。ある学生は「英語での長い学術的な講義を受けた経験は少なく、理解が難しく感じた部分もあったが、SuperPower というホットな話題について考えることができ大変勉強になった。」と感想を述べた。



### 8. Life Purpose & Trust

前述の Brent 講師のセッション。自身の人生の目的を話した後、参加者たちに「What do you love to do?」「Who do you do it for?」と質問を投げかけた。回答は1つの単語で表すといった、自分の考えていることを明確にしなければならず、今まで自分を掘り下げたことが少ない学生たちにとって目が覚める体験となったようだ。また、Trust のセッションでは他人を信じるところから始まる、ということを実践等を通して学んだ。





アクティビティ風景

## 9. Presentation Skills

**Bryan Peterson** 講師のセッション。「関心のある国際関連の問題について自分の意見を3分間で発表する」という事前課題の発表を三名一組で行った。ひとりがプレゼンテーションを行い、その姿をスマートフォンで撮影。終了後、見ていた2名から良かった点と改善点についてフィードバックをもらうということを順番に行った。その後、それぞれの組で1名代表者を選び、全体のプレゼンテーションに臨んだ。プレゼンテーションを見た講師から全員が堂々と自分の意見を述べていて良かったと評価した。最後に、シークレット投票が行われ、見事1位に輝いた学生には大きな拍手が送られた。



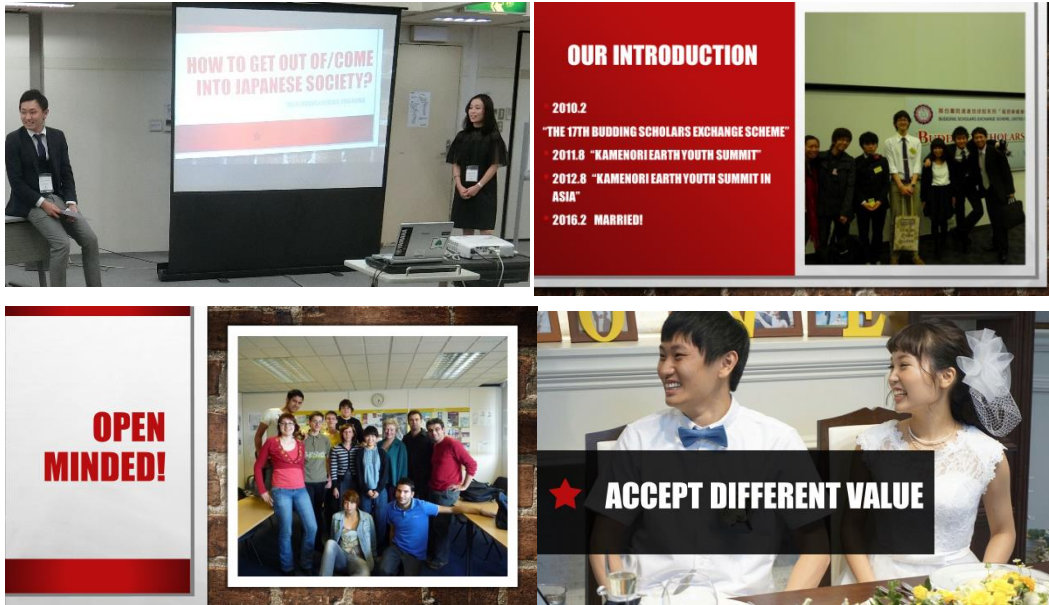
自分が準備したプレゼンテーションを他の学生に見てもらう



代表者のプレゼンテーション

## 10. Encouraging Speech

かめのり地球青少年サミット（KEYS）2011 に参加した先輩2名が仕事の合間を縫って東京から駆け付けてくれた。ふたりは現在、大手企業にて英語を日常的に使う仕事をしている。参加者たちに、かめのり財団のプログラムに参加した時から現在に至るまで、面白いエピソードを交えて紹介してくれた。天沼さんの言葉は自身の経験から出た本音であるため、参加者たちの心に響くものが多く、みな熱心に耳を傾けていた。



## 11. Global Mind Set

Mazlan Arifin 講師による異文化理解のセッション。異文化をまず体感してもらおうと「Walk and Stop」というアクティビティを実施。「Walk」と言われた場合には「Stop」、「Stop」と言われた時には「Walk」という言葉と反対の動きをしなければならず、参加者たちは初め混乱してうまく動けなかった。しかし、繰り返し行ううちに自分をコントロールできるようになり、だんだんと順応していった。アクティビティ後には、東南アジア6か国の文化について日本との違いや共通点を挙げさせ、彼らと良い関係を作るにはどうしたら良いのか、各グループでディスカッションを行った。



アクティビティの様子

アクティビティの感想を述べる参加者

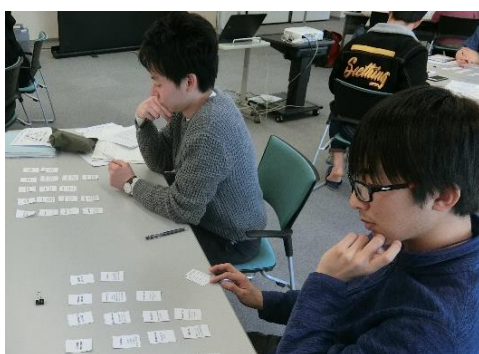
講師はセッションの最後に「他国の文化が自分の文化と全く異なっていたとしても、快く他

の文化を做う気持ちが大事である」と述べた。



## 12. Values & Visioning

参加者それぞれにとって一番価値のあることは何か、と自分の心に問い直すセッション。カードに書かれた価値観はどれも大切なように思えるが、それらにはっきりと優先順位をつけ、最後の1枚になるまで絞り込む。皆、迷いながら取捨選択をし、捨てる作業では悲しそうな顔を浮かべる参加者もいた。このような問いに初めて向き合い、心動かされたようだ。このセッションの最後に、「2025年にかめのりカレッジ参加者で同窓会を開催する」という設定で、ロールプレイをした。6年後の自分がどうなっているか想像し、理想の自分になりきって会話を楽しんでいた。自分の将来についてのヒントを得た、という感想を多くの参加者から聞いた。



真剣な表情でカードを選ぶ



カードを残した理由をペアに話す



同窓会のロールプレイ



### 13. Working overseas

中国、タイで長く駐在をした堀江徹講師のセッション。前半は日系企業に関する調査を紹介し、そこからクイズが2問出題された。なんと4チーム中2チームが全問正解し、講師もびっくり。後半は日本企業と外国企業を比較し、それぞれの特徴について各チームで話し合った。将来海外で働くことを考えている学生たちにとって、配属や昇進制度の違いはとても興味深かったようだ。セッション終了後には海外での就職について相談したい学生たちが講師を囲んで質問していた。



ディスカッション風景



クイズの回答と理由を発表



日本と外国の企業における常識の違いについて考察を述べる



### 14. Team Presentations

初日から毎晩取り組んだチームワークショップ。最終日の朝に、チームプレゼンテーション発表が行われた。参加者の何人かに聞くと、前日はほとんど寝ずに準備したとのこと。緊張のせい、学生たちの表情は少し硬かった。緊張をほぐすために、プレゼンテーション前に気合の掛け声を出すチームもあった。プレゼンテーションの内容は、コンサルタントとして、クライアントが抱える問題の分析、根本的な原因、解決方法を提示すること。発表内容の割り振りがされ、チーム全員が発表を行った。発表者は紙をほとんど見ずに話しており、周到に事前準備をしていたことが分かった。参加者たちの感想として「このチームプレゼンテーションは挑戦だったが、英語でグループディスカッションを重ねるといい経験ができた」、「他のチームのプレゼンテーションを見て、自分のチームの足りないところが分かった」というように、それぞれ有意義な経験となったようだ。



チームプレゼンテーション前日の夜



各グループ、かなり打ち解けた雰囲気



チームプレゼンテーション当日朝



TeamA のプレゼンテーション



Q&A に回答する TeamB メンバー



TeamC



TeamD



クロージング

### 【KC2019 振り返りセッション&修了式】

2019年5月25日（土）アルカディア市ヶ谷において、かめのりカレッジ2019（以降、KC2019）振り返りセッション&修了式が行われた。プログラム終了後、3か月ぶりに会う参加者たち。会場に到着後すぐに、英語で近況報告をして盛り上がっていた。振り返りセッションは山本智巳講師の挨拶から始まり、学生たちにプログラム終了後の三か月間について問いかけた。その後、15名の学生たちはそれぞれ「KC2019で学んだこと」「自分を成長させるためのアクション」「進捗状況」「将来のためのさらなるアクション」について約5分間のプレゼンテーションを行った。今回のプレゼンテーションは講師と学生がそれぞれ採点し、最後にシークレット投票で1位と2位を発表することになった。久々に英語でプレゼンテーションするという学生が多く、少し緊張気味の様子。休憩時間には互いを励まし合って、緊張を解きほぐす姿が見られた。プレゼンテーションでは、KC2019参加前は「本当に自分はこのプログラムについていけるだろうか、どんな人たちが参加するのだろうか」と不安な気持ちでいっぱいだったと話す学生が多くいた。ある学生は全然知らない人といちから話すことを苦痛に感じていたけれども、各セッションでペアやグループになる人たちと話すうちにだんだんと楽しいと思え、初対面の人と話すことが怖くなくなったと心境の変化を述べた。また、多くの参加者の感想で、参加者同士刺激を受け合い、また絆を深めていったという声が聞かれた。今回の振り返りセッションを通して、自分のビジョンを明確にし、またモチベーションの保ち方のヒントを得た参加者たち。彼らのさらなる成長と活躍を期待する。



近況報告で盛り上がる参加者



開会挨拶（山本智巳講師）



Brent Conkle 講師からの激励



5分間のプレゼンテーション



KC2019 で学んだことについて話す参加者たち



KC2019 修了証授与式



修了式後のパーティ



プレゼンテーション順位発表



報告：(公財) かめのり財団  
齋木香澄